



遷宮で結ぶ人の輪心の輪  
第六十二回神宮式年遷宮

神社神道の立場から諸外国の神話を比較する	2
神道政治連盟埼玉県本部長就任にあたって	5
第三十一回 埼玉県神社関係者大会	6
初任神職研修	7
祭祀舞研修会に参加して	7
平成二十二年度総代幹部研修会報告	8
平成二十三年神話カレンダー	8
埼玉県神道青年会事業報告	9
杜の味めぐり	10
庁務日誌抄	11
お宮と親子の集いハンドブック作成に向けて	12

目次



第193号  
 発行 埼玉県神社庁  
 さいたま市大宮区高鼻町1-407  
 電話048(643)3542  
 編集 庁報室  
 印刷 アサヒ印刷(株)



人間支部「お宮と親子の集い」参拝作法の指導

# 神社神道の立場から諸外国の神話を比較する

## ―ヤマタノオロチ退治の神話を通して―

三橋 健

### スサノオノミコト

埼玉県下には大宮の氷川神社をはじめとしてスサノオノミコトを主祭神とする神社が多く鎮座している。この神は日本神話で最も人氣があり、『古事記』では建速須佐之男命・速須佐之男命・須佐之男命・須佐能男命、『日本書紀』では速素戔男尊・神素戔男尊・素戔鳴尊、『出雲国風土記』では神須佐乃烏命・神須佐能袁命・須佐平命・須佐能烏命・須佐能乎命・須佐能袁命・須佐能烏命、また『備後国風土記』逸文では速須佐雄能神と表記されている。

また神格も複雑多岐にわたっており、神話もさまざまに展開しているが、なかでもドラマチックなのはヤマタノオロチ退治である。そのヤマタノオロチを『古事記』では高志の八俣遠呂知といい、『日本書紀』では八岐大蛇と表記しているが、神話の構成は記紀ともにほぼ同じである。

### ヤマタノオロチ退治の神話

スサノオノミコトがヤマタノオロチを退治した神話は世間に広く知られており、今さら説明を要しないが、念のため『古事記』に記すあらましを述べておくことにする。

高天原を追い払われた須佐之男命は出雲国の肥の河の上流の鳥髪にお降りになった。その時、老夫と老女が少女を間において泣いていた。名前をたずねると、「足名椎といい、妻は手名椎、娘は櫛名田比売といいます」と答えた。泣いているわけを問うと「もと八人の娘がいたが、毎年、高志の八俣の大蛇がやってきて食べてしまう。今、その時になったので泣いています」という。また大蛇の形は「目はホオズキのように赤く、一つの身体に頭が八つ、尾が八つあり、苔や桜や杉などが生え、長さは八つの谷と八つの峯をわたるほどもあり、腹を見ると、いつも血がしたたかって、ただれております」と答えた。須佐之男命が「娘さんを私の妻にくれませんか」と仰せになると、「恐れ多いことですが、あなた様のお名前を知りません」と答えたので、「私は天照大御神の弟で、天から降りてきました」と仰せになった。足名椎と手名椎は「それは恐れ多いことです。私どもの娘を差し上げましょう」と申し上げた。

須佐之男命は娘を神聖な櫛に変身させると「あなたたちは濃い酒をたくさん造り、垣を廻らして八つの門を作り、門ごとに酒槽を置き、そこに濃い酒を満ち溢れるほど入れて待ちなさい」と仰せになった。

仰せの通りになって待っていると、大蛇がやってきて酒槽へ頭を突っ込んで酒を飲み、酔っぱらって、その場に伏して寝てしまった。須佐之男命は剣を抜いて、大蛇を散り散りにお切りになったので、肥の河の水は血となって流れた。

大蛇の中の尾をお切りになった時、剣の刃が少し欠けた。不思議だと思われて切り開いてみると、立派な太刀が出て来たので、それを天照大御神に献上なさった。これが草薙の剣である。

須佐之男命は宮殿を作るため出雲国の須賀に行き「すがすがしい」と仰せられ、そこに宮殿を造られた時、雲が立ち昇った。そこでお詠みになったのは、

や雲たつ 出雲八重垣 妻隠みに 八重垣作る その八重垣を  
 という歌である。その後、足名椎に「宮殿の長になりなさい」と仰せになり、名前を稲田宮主須賀八耳神とお付けになった。

ペルセウスとアンドロメダ型の怪物退治の神話  
 このようなヤマタノオロチ退治の神話はペルセウス・アンドロメダ型神話であり、出雲地方だけのものではなく、世界的に広がっている神話であるという。それは英雄が龍などの怪物と戦って姫を助け出し、その姫を妻とす

### 神話

ペルセウスとアンドロメダ型の怪物退治の神話  
 このようなヤマタノオロチ退治の神話はペルセウス・アンドロメダ型神話であり、出雲地方だけのものではなく、世界的に広がっている神話であるという。それは英雄が龍などの怪物と戦って姫を助け出し、その姫を妻とす

るといふ一定の型をもっている。

ペルセウスはギリシャ神話に登場する英雄である。ゼウスとダナエの子で、成長して女怪物メドゥサの首を切り落とした。メドゥサはゴルゴン三姉妹の一人で、頭には髪のかわりに蛇が生え、イノシシの牙と青銅の手、黄金の翼を持つという醜い顔かたちをしている。またメドゥサを一目見た者を石と化した。ペルセウスはメドゥサを直接見ないように盾に姿を映しながら近づいて首をはねた。そのときメドゥサはポセイダンの子を孕んでいたので、切られた首からクリサオル（黄金の剣）との意）と天馬ペガソスが生まれた。

つぎのアンドロメダはエチオピア王ケフェウスと王妃カシオペアの間にも生まれた美しい王女である。王妃カシオペアは自分の娘アンドロメダの美貌が海神ポセイダンの孫娘たちに勝ると豪語したため怒りを買ひ、アンドロメダは海の怪物の犠牲として波打際の岩に縛られた。そこへメドゥサを退治して、その首を携えたペルセウスが通りかかった。ペルセウスは海の怪物にメドゥサの首を見せて石に化し、アンドロメダを救出し、後に妻にした。

ここでギリシャ神話の英雄ペルセウスと日本神話の英雄スサノオノミコトとを比較すると、さまざまな類似点がみられる。ペルセウスは海の怪物（鯨ないし龍という）を退治し、アンドロメダを救出して妻とした。またスサノオノミコトはヤマタノオロチを退治し、櫛名田比売を救出して妻とした。また類似点と

はいえないが、怪物退治に際してペルセウスはメドゥサの首で海の怪物を石に変身させたとあり、スサノオノミコトは櫛名田比売を神聖な櫛に変身させたとある。櫛には魔物をよける呪力があるといわれた。

岩波の日本古典文学大系本『日本書紀』の補注には、フイリピンのミンダナオ島モロ族に伝わる巨鳥退治の物語を掲げている。それはインドラパトラとスライマンという兄弟が人間を苦しめる巨鳥を退治するというもので、最初、弟のスライマンがビタ山の巨鳥を退治するが、自分も死んでしまう。兄は巨鳥の羽の下に霊剣を発見し、弟の屍体を蘇えらせ、さらにグライン山で、七つの首をもつ怪鳥を神剣で退治し、生き残った老夫婦と知り合い、助かった少女と結婚するという筋書きである。この物語にもスサノオノミコトのヤマタノオロチ退治との類似点がみられる。ここでは七つの首をもつ怪鳥とあり、八つの頭を持つヤマタノオロチとは異なるが、兄インドラパトラが怪鳥を退治し、生き残った老夫婦と知り合い、助かった少女と結婚するなどは、スサノオノミコトが八つの頭を持つヤマタノオロチを退治し、足名椎・手名椎という老夫婦の娘である櫛名田比売と結婚したのと似ている。

### 聖ゲオルギウスの龍退治

ヨーロッパ諸国におけるペルセウス・アンドロメダ型神話で広く知られているのは聖ゲ

オルギウスの龍退治である。ゲオルギウスはゲオルク、ゲオルギイ、ゲオロギウス、ギオロギウス、ジョルジュ、ジョージなどさまざまな表記されるが、この語の意味は「大地で働く人」すなわち「農夫」ないし「農耕」である。これに関して補説しておきたいのは、ヤマタノオロチ退治神話にも農耕的要素が認められることである。例えばオロチを退治した後でスサノオノミコトが「不思議に豊かに実る田」との名をもつ櫛名田比売と結婚したのも、そこに農耕儀礼のあったことを彷彿とさせている。

それはともかく、ジェノヴァの大司教ヤコブス・ド・フォラギネ（一二四五～七三）がヨーロッパ中世の聖人伝を集大成した『黄金伝説』には、数多くの龍退治の伝説が収録されており、聖ゲオルギウスの龍退治も収められている。この聖人伝はラテン語で書いてあるが、わが国では前田敬作訳『黄金伝説』（人文書院）として出版されている。その訳により聖ゲオルギウスの龍退治のあらましを記しておくことにする。

リビア（アフリカ北部）のシレナという町の近くの湖に悪龍が棲んでいて、口から吐く毒気のために多くの人々が死んでいった。人々は龍の怒りをなだめるために、日に二匹の羊を犠牲に捧げたが、羊は次第になくなり、若い男女も少なくなっていく。ついに王は愛する王女を犠牲に捧げることになり、八日間、嘆き悲しんだのち、龍のいる湖までゆき、王



バオロ・ウッチェロ作「龍と闘う聖ゲオルギウス」  
ロンドン ナショナル・ギャラリー蔵

女をひとり残して帰ってきた。たまたまそこを通りかかった騎士ゲオルギウスは、いささつを聞き、龍退治を決意する。やがて湖から現れる龍の恐ろしさに慄える王女に、ゲオルギウスは直ちに立ち去るように叫ぶと、ゲオルギウスは襲いかかる龍を目がけて突進し、槍をふるい、幾度か闘った後に、王女に腰帯を龍の頭に投げよと叫んだ。王女がそれを投げると、龍は大人しくなり、これを捕えて町にひきずってゆき、王と民衆の面前で、ゲオルギウスは剣を抜いて龍の息の根をとめた。この勇気ある騎士の行為を見て、多くの人々がキリスト教に帰依し、王はゲオルギウスの

榮譽のために多くの教会を建て、沢山の宝物を捧げたが、ゲオルギウスはこれを貧しい人々に頒け与え、王女に別れを告げて旅立ったという。

このシレナの湖に棲む悪龍を退治したゲオルギウスとヤマタノオロチを退治したスサノオノミコトには類似点がみられる。また救出した王女は櫛名田比売に相当する。注意されるのは王女が腰帯を龍に投げると龍が温和になったと記すことである。この腰帯には櫛名田比売を神聖な櫛にしたのと同じく呪力をもつことが明らかである。ただゲオルギウスは王女を妻としないで旅立つところはスサノオノミコトと相違している。

聖ゲオルギウスはヨーロッパ諸国の民衆が篤く崇拜する聖人で、その名前が「農夫」「農耕」を意味することから、葡萄の実りの守護聖人といわれている。また白馬に跨って凶暴な龍に立ち向かっている勇敢な姿にあやかりたいと武運を祈る兵士たちが崇拜した。さらに家畜、なかでも馬の守護聖人としても有名である。

**日本固有にして世界に普遍的なもの**

私はヨーロッパ諸国で騎士ゲオルギウスが龍退治をしている場面の絵画や彫刻を数多く見た。口を大きく開いて襲いかかる巨大な龍に立ち向かい、馬上から槍でこれを突き刺しているゲオルギウスの雄姿、その傍に櫛名田比売を思わせる王女がいる。そのような絵画

や彫刻に出会うたびごとに、日本のヤマタノオロチ退治の神話を思い出した。

また聖ゲオルギウスの祝祭日の四月二十三日（オーストリアは二十四日）になると、聖ゲオルギウスにゆかりのある教会や町などでは龍退治の祭事（野外劇）などを行う。騎士ゲオルギウスに扮した町の青年たちが馬上から龍の大きな口を目掛けて槍を投げ入れると、大きな口からは血しぶきがあがり、さらには血が流れる。これは勇気ある騎士ゲオルギウスの龍退治を再現したものである。この伝説は、いまでもヨーロッパ諸国の民衆の間で生きているのである。

そのような野外劇を観ながら、私は石見神楽の「大蛇（おろち）」を想起していた。「大蛇」は石見神楽の最終に行われる最も人気のある演目で、ヤマタノオロチ退治を題材としたものである。スサノオノミコトが神剣を振りかざしながら、オロチを退治していく神楽は、遠い神代の昔の出来事ではなく、今も生きていることを実感する。神楽や祭事は生きている神話なのである。

日本の神話は日本固有のものであるとともに世界に普遍的な要素を多分に含んでいることが、スサノオノミコトのヤマタノオロチ退治神話からも知ることができる。そのような観点から、今後、神社神道や日本神話を再考してみる必要があるのではないかと思う。

（國學院大学大学院客員教授）

## 神道政治連盟埼玉県本部長就任にあたって

本部長 押田 豊

本年四月一日より、中山高嶺前本部長から、その任を引き継がせていただきました。また、就任早々迎えることとなりました先の参議院選挙におきましては、皆様のお蔭をもちまして、我々が推薦しました比例代表全国区の山谷えり子氏、埼玉県選挙区の関口昌一氏が当選されました。我々と志を同じくする両氏には、更なるご活躍を期待しています。

これまで、前本部長が神道政治連盟中央本部幹事長として深く関わっていただいたお陰で、その情報が逐一埼玉県に入ってきました。あわせて、県の神道連執行部の方々のご努力で、たくさんの成果を上げてこられたことも再認識し、この責務の重さを痛感すると共に、皆様の御指導をいただきながら、努力して参りたいと存じます。

終戦後、日本人は、この国の復興のために、全国民が一致協力して励まし合い、助け合いながら、懸命に働き続けました。しかし、経済が急速に発展する中で、物が豊富になりましたが、逆に失われてゆくものがでできました。それは、物を大切に作る心、敬神崇祖・感謝の心です。

日本の精神的柱が見失われ、混乱が続く中、当時の方々は、この混迷を整えて日本が日本らしく再生してゆくために、民族の原点

にもどらなければならぬと実感しました。その想いを受け、神社界では大和民族の出发点「紀元節の復活運動」を一大国民運動として展開し、その結集した大きな力によって昭和四十二年「建国記念の日」が制定されるに至りました。

この経験から「伝統回復に向けた数々の課題解決のためには、政治への積極的な関わりが不可欠」との認識が高まり、準備期間を経過し昭和四十四年十一月八日、「神道政治連盟」が発足しました。

諸政策の中では第一義に「皇室尊厳護持」を掲げると共に、靖国神社、憲法改正、教育正常化、安全保障・拉致問題・領土問題等の解決に向けて活動展開しています。

これに呼応して、昭和四十五年五月に「神道精神を国政の基礎に」との考えに理解を示す国会議員の組織「神道政治連盟国会議員懇談会」が設立され、現在会長を安倍晋三元首相がされています。今日では、地方議員による地方議員連盟も各地で結成され、神道政治連盟の方針政策を地方行政の立場から推進するため積極的に活動を展開しています。

民主党政権下での政治の現状は、国の将来を見据えた施策がほとんど無く、歳入不足にも拘らず、子供手当支給や高速道路の無料

化他、借金を重ねる事を繰り返し実行しようとしてつづつあります。ただでさえ家庭が崩れかけている状況の中で、「選択制夫婦別姓」を、そして、国防のことを考えていないと思える「永住外国人への地方参政権」を提出しようとしている有様です。

これまで神道連の活動に対し、ややもすれば選挙の時の署名運動をすることが主な活動と印象づけられています。しかし、何故、選挙によって神道連が推薦する候補者を選ばなければならぬのか、その人にしっかりとこの国の将来を託すべきではないかと、神職各自が認識を高め、積極的に支援しなければならぬことを、私自身が、今、実感し始めています。

私共神職は、全人口からみたら、ほんの握りの数しかいませんが、祭りや行事を通して、多くの方々にメッセージを伝える機会を持っています。戦後の歩みは、すべて急ぎ足で進み、大切なものが見えなくなっています。日本国にとって、健全な社会が構築されるために、神職・総代始め神社関係者は、今何をしなければならぬか、そして、いかにそれを実践に結び付けなければいけないかを、強く認識し行動しなければならぬと思います。

# 第三十一回 埼玉県神社関係者大会

大澤 佳広

去る六月二十三日、北足立支部当番により、第三十一回埼玉県神社関係者大会が戸田市文化会館を会場に開催され、折からの雨にも拘らず、県下より七百名を超える神職並びに総代が参加し盛大に執り行われた。

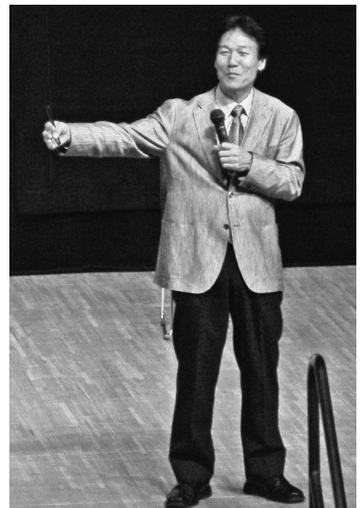
橋本昭司北足立郡市神社総代連合会長による開会の辞に始まり、全参加者が神宮並びに

皇居の遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和を行い、中山高嶺庁長による式辞、井上久埼玉県神社氏子総代連合会長の挨拶と続き、次いで来賓としてお招きした神社本庁総代理片岡昭雄長老、神宮大宮司代理横地克重神宮参事、宮崎義敬神道政治連盟会長、関口昌一参議院議員よりそれぞれ御祝辞を頂戴した。

次に、第六十二回神宮式年遷宮への当県の奉賛金が目標額を上回ったことに対し、横地参事から、神宮大宮司の感謝状が川本宜彦式年遷宮奉賛会埼玉県本部長へ贈呈された後、川本本部長より平成十九年度より進めてきた遷宮募財活動を振り返ると共に、目標額達成を県下の神職、また、総代に感謝する旨の挨拶がなされた。

続いて、神社庁規程表彰及び総代会恒例表彰が行われ、神職十三名・総代二十七名・神社役員二名の計四十二名が永年の功績により表彰の栄に浴され、加藤三郎水川神社総代が代表し、今回の表彰を糧に今後も更に神社の護持運営に邁進する旨の謝辞を力強く述べられた。

次に、宮本和彦北足立副支部長により、「神道の精神である敬神崇祖の心が忘れられかけている我が国が、経済を始め国政の諸問題に於いて困窮を極めていることに対し、我々神



社界は日本の国体や人心を恢復させる為に、良き伝統を守り、道義の昂揚を図り、健全な社会を取り戻すよう一層の努力を要することと共に、この意を体して活動する国会議員を選出し保守再生を図る」、更に「第六十二回神宮式年遷宮の奉賛事業の完遂、また家庭祭祀の振興を図るべく神宮大麻の頒布数拡大に向けて邁進する」旨の本大会宣言(案)が朗読され、原案通り決議された。

小休止を挟み、森谷敏夫京都大学大学院教授による「生涯現役のおもしろ健康学」と題された講演が行われた。

次に、次年度当番支部の中野誠入間支部長が挨拶をされ、鈴木邦房北足立支部長の先導により聖寿万歳の三唱と続き、最後に、大野光政埼玉県神社氏子総代連合会副会長が閉会の辞を述べ大会の幕を降ろした。

(北足立支部事務局)



# 初任神職研修

中山真樹

平成二十二年度の初任神職研修が八月三日から五日まで、長瀨町の寶登山神社（中山高明宮司）を会場として開催されました。

本年は、県下初任神職十二名、本社本庁より三名、計十五名の参加があり、「本庁史」、「神職奉務心得」、「神道行法（鎮魂禊）」、「祝詞」等といった講義を受け、全員無事に研修科目を修了する事ができました。

また、今年度の研修では、二日目には、社頭講話演習を行ない、テーマを「例祭後の社頭講話」とし、受講生は各々、緊張しながら社頭講話の実践を行いました。

さらに、八月二十五日に東松山市の箭弓稲荷神社（澤田昌生宮司）で開催された祭祀研修会も引き続き受講し、全日程を終了しました。（庁報編集委員）



4	3	2	1	日数
8/25 (水)	8/5 (木)	8/4 (水)	8/3 (火)	月/日(曜)時
				5:00
	朝 拜	朝 拜 神道行法(禊) (持田)		6:00
	朝 食	朝 食		7:00
受 付 正式参拝・開講式	祝 詞 (中山)	神職奉務心得 (高麗)	受 付 正式参拝 開講式	8:00
祭 式	神社実務 (前原)	神職奉務心得 (中山・武田)	本 庁 史 (林)	9:00
昼 食	昼 食	昼 食	昼 食	10:00
祭 式	祭 式 (千島幸・高梨・竹本・ 千島直・高麗)	神職奉務心得 (大澤)	本 庁 史 (新井)	11:00
衣 紋	閉 講 式	神宮に関する 講 義 (馬場)	神社実務 (武田)	12:00
閉 講 式		夕 食	夕 食	1:00
		神宮に関する 講 義 (高橋)	神 道 行 法 (鎮魂) (持田)	2:00
		夕 拜	入浴・就寝	3:00
		入浴・就寝		4:00
				5:00
				6:00
				7:00
				8:00
				9:00

# 祭祀舞研修会に参加して

青木誉智

八月十七日、寶登山神社を会場に埼玉県神道婦人会主管で祭祀舞研修会が、十五名の参加により開催されました。

祭祀舞というのは、女性だけの舞だと思っ  
ていましたが、男性も舞う祭祀舞もあるとい  
う話を聞いてから、祭祀舞に興味を持ち、神  
道婦人会に参加の可否を問い合わせしてみた  
所、ぜひ参加下さいとの返事をいただいたこ  
とから、五年程前より研修に参加しておりま  
す。

江森茂代講師と大澤真弓講師補の下、宮司  
舞という男性が舞う事の出来る「朝日舞」と  
乙女舞の「豊栄舞」を交互に、毎年二十  
三十名程の参加者で研修会が行われていま  
す。男性神職も、最初は一人くらいでしたが、  
今では三〜五人の参加があります。

今回は、朝日舞の研修でした。宮司舞とい  
うだけあって緩やかで静かな動きの舞ですの  
で、男性にも覚えやすいと思います。

私も今では、自社の例祭や助勤先の神社で  
舞を奉奏させてもらったりしています。少し  
でも舞に興味のある方には研修の参加をお薦  
め致します。  
(八幡神社宮司)

# 平成二十二年度総代幹部研修会報告

茂木 治男

# 平成二十三年神話カレンダー

関山 知彦



近年、多発して

り、「神社と総代」維持運営について」と題した講演が行われ、神社を取り巻く環境、あるいは総代の任務と役割など、基本的な説明がなされた。さらに、神社の運営における諸問題や危機管理について、事例を挙げながら解説し、

いる争議や不慮の事件・事故に対して、迅速な対処・未然防止をするためには、普段から体制を強化し、総代・神職・役員との連携を密にすることが大切であると力説された。  
次に、高橋寛司神社庁学芸員により神宮大麻の変遷、全国に頒布されている大麻の意義に加え、頒布の現状について映像を交えた解説がなされた。  
続いて、神社本庁が制作した「神宮大麻」大御神様の御蔭を頂いて」のDVDを観賞した。伊勢の地での清浄を期した神宮大麻奉製風景から全国各地での頒布の様子を見て、一体でも多くの神宮大麻を頒布すべく、日々努力をしなければならぬと心新たにされた次第である。  
閉会式において、井上会長が神職・総代が一致協力して、斯界の興隆に尽力し、神宮大麻増頒布活動に県下一丸となり、臨まなければならぬと、力強く宣言された。  
その後、懇親会が催され、大野光政県氏子総代連合会副会長が挨拶を述べ、柴崎久雄県氏子総代連合会理事（大里支部総代会会長）の乾杯の発声により開宴となり、和やかに懇親会が進み、会場のあちこちで盛んに意見交換の輪が見られ、有意義なひとときを過ごした。  
最後に、岩井弘之大里支部長の中締めのことばで、めでたく閉宴となった。

(大里支部事務局)

埼玉県神社氏子総代連合会主催による、平成二十二年度総代幹部研修会が、去る八月二十四日、大里支部当番により、熊谷市の「ホテルガーデンパレス」において、猛暑の中開催された。  
来賓として、埼玉県神社庁より、中山高嶺庁長・竹本佳徳副庁長・押田豊副庁長・岩井弘之大里支部長をお迎えし、百五十八名の参加をいただいた。

開会式は、開会の辞・神宮遙拝・国歌斉唱・敬神生活の綱領唱和に続き、井上久埼玉県神社氏子総代連合会長と中山庁長が挨拶を述べ、次に、来賓並びに本年四月に改選された本会役員の紹介が行われた。  
研修会では、まず、武田淳神社庁録事により、「神社と総代」維持運営について」と題した講演が行われ、神社を取り巻く環境、あるいは総代の任務と役割など、基本的な説明がなされた。さらに、神社の運営における諸問題や危機管理について、事例を挙げながら解説し、

神話啓発事業として続けてまいりました「神話カレンダー」も今回で十一作目となりました。私たちの祖先が守り伝えてきた日本神話には、現代社会に失われつつある道徳が数多く含まれていると思います。近年では、小学校の国語に「神話・伝承を読み聞かせる」ことが追加されたそうです。このカレンダーにより、子供はもちろん、大人にも日本神話を知ってもらえれば幸いです。  
今回取り上げる神話は、「天の岩屋戸」です。天の岩屋戸にお隠れになられた天照大神をお祀りする神々の姿は、神社祭祀の原点ともいえるべきものです。また、そこで語られる天照大神と須佐之男命の対峙は、日本神話に欠くことのできない重要な物語といえるでしょう。皆様の御社頭での神話啓発の一助となることを期待します。

(教化委員会情報部副部長)



# 埼玉県神道青年会事業報告

嶋田 久仁彦

埼玉県神道青年会は、高橋信和会長の元に事業企画部・事業発信部・研修部・式年遷宮の心を未来に伝える特別推進室が置かれ、「再生」を活動テーマとして様々な事業に取り組んでおります。本年四月の総会より八月末までに行われた主な事業についてご報告いたします。

## ◎最優秀広報受賞（事業発信部）

四月二十七日に本社本庁にて行われた第六十二回神道青年全国協議会定例総会において、当会の「溪流・神青ジャーナル」が最優秀広報賞を受賞いたしました。最優秀賞は毎回必ず選ばれるとは限らず、該当なし、となることが多いのです。日頃より全国各単位会それぞれが工夫して会報誌制作にあたっていますが、その中でも内容の充実が抜群に優れていると認められる単位会にのみ与えられる賞です。

## ◎献木事業（事業企画部）

五月二十五日に大里支部管内において献木事業を行いました。深谷市の玉津島神社に集合し、日程説明及び昼食の後、参加会員が三班に分かれて、各社を参拝し、献木及び境内清掃などのご奉仕をさ



せていただきました。

## ◎勉強会（研修部）



た。展示資料を見ながら、昭和天皇のご事績について学びました。昼食後は高尾へと移動し、武蔵野御陵にお参りいたしました。

## ◎勉強会（遷宮特別推進室）

七月十三日に秩父神社にて勉強会を開催いたしました。蘭田稔秩父神社宮司、井上久神社氏子総代連合会会長、馬場裕彦教化副委員長をパネリストとしてお迎えし、竹



六月二十二日に立川にあります昭和天皇記念館を訪れ、昨年の勉強会でご講演をいただいた中曾根吾朗氏の丁寧なご説明を受けながら館内を見学いたしました。

## ◎禊祓成研修会（研修部）

本佳標遷宮特別推進室室長がコーディネーターを務め、「神宮大麻頒布拡大の模索」をテーマとしてパネルディスカッションを行いました。勉強会終了後には、懇親会を行いました。

節目となり

ます第三十回禊祓成研修会を八月二十二・二十四日の日程で、寶登山神社を会場として開催いたしました。持田長武神道行法錬成行事道彦にご指導を賜り、ご神域にて両日ともに禊及び鎮魂を行いました。また二日目には、当会の第十一代会長でもあります鈴木邦房氷川神社宮司より「青年期の神道論」を演題としてご講演を賜りました。禊祓成研修会を始めた当初の先輩方の熱い思いや当時のエピソード、青年神職としての心構えなどをお話いただきました。



(埼玉県神道青年会副会長)

# 杜の味めぐり (二)

今回は、長瀨町に鎮座している寶登山神社の参道周辺を散策いたしました。

寶登山神社参道入口の大鳥居前に「お食事処さくらい」があります。店内は広く、入口では、蕎麦打ち職人が丹精込めて蕎麦を打っているのが印象的です。メニューには、手打ち蕎麦はもちろん、うどん・天ぷら等がありますが、一際目を引いた夏季限定の「鮎御膳」を注文しました。「鮎御膳」には、そば・鮎の塩焼き・地元野菜の天ぷら・サラダ・秩父名産刺身こんにゃくが付いてきます。戸隠産のそば粉、地元の小麦粉を使用した打ちたてのコシのある蕎麦、汁にはわさび・胡麻・葱



お食事処さくらい 店舗

といった薬味を入れて美味しく頂きました。炭火の絶妙な焼加減の鮎は頭も残すことなく食べられます。天ぷらはサクサクで、刺身こんにゃくは酢味噌と絡み合い、味は言うまでもありませんが食感も楽しめます。夏休み中という事もあり長瀨観光に訪れた家族連れや若い人達で店は賑わっていました。



お食事処さくらい 鮎御膳

次に向ったのは、明治二十三年創業の「阿左美冷蔵」(本店・皆野町金崎)が平成十八年に開店した「寶登山道店」です。県内唯一の天然水を製造するかき水店

で、雑誌等にも数多く紹介されている有名店という事で、シーズンともなると平日でも一時間、休日ともなると二時間待ちという行列の出来るほどです。また、この「寶登山道店」は、平成二十一年に彩の国景観賞たものの「まちなみ部門」を



阿左美冷蔵 抹茶小豆



阿左美冷蔵 店舗

受賞した美しいお店です。メニューは、かき氷のほかコーヒー等もあります。かき氷の苺ミルク・抹茶あずき・和三盆糖の蜜味を注文し、出て来たかき氷はその迫力にビックリです。高さ三〇センチはあるでしょうか、その迫力とは違い、フワフワとした口解けの良い氷は絶品でした。また、自家製シロップはかけ放題という甘党の人にはたまらないサービスマもあります。優しい人柄が窺える店主が、天然氷の作り方やかき氷の美味しい食べ方を丁寧に説明してくれました。今回、取材させていただいた「お食事処さくらい」や「阿左美冷蔵」へ、ぜひお立ち寄り下さい。

庁務日誌抄

6・1	神政連東京都本部結成三十周年大会 中山庁長他出席 於 明治記念館	6・25	第三十一回埼玉県神社関係者大会 於 戸田市文化会館 神社庁協議員会・神政連代議員会 於 大宮「清水園」 神社実務部会 於 神社庁	8・11	教化事業部会(原班・恩田班) 於 神社庁 埼玉県護国神社みたま祭り 竹本副庁長他参列
6・3	「後継者問題実態調査」連絡会 前原参事他出席 於 神社本庁	7・5	一都七県神社庁当番引継 中山庁長・前原参事出席	8・15	教化事業部会(鴨下班) 於 鳩ヶ谷・氷川神社 神婦会祭祀舞研修会 十五名受講 於 寶登山神社
6・4	遷宮奉賛会県本部会計監査会・同理事會 神社庁役員会 神政連県本部役員委員合同会議	7・7~8	祭式指導者養成研修会 十五名受講 於 茨城県神社庁 神社庁六十五年誌編集会議 於 箭弓稲荷神社 山谷えり子街頭演説 於 神社庁 山下忠佳宮司長老祝賀会 於 大宮駅西口	8・17~21	一都七県神社庁中堅補職研修会第十五次(甲) 当県十名受講 於 明治神宮 神社実務部会 於 神社庁
6・7	神政連本部長・事務局長會 神政連結成四十周年式典 中山庁長他出席	7・9	岩下忠佳宮司長老祝賀会 中山庁長・武田録事出席	8・19	情報部会 於 熊谷・Hガールズ 情報部会 於 熊谷・Hガールズ 祭式研修会 於 熊谷・Hガールズ 祭式研修会 於 熊谷・Hガールズ 祭式研修会 於 熊谷・Hガールズ
6・8	神政連中央委員会 井上副本部長他出席 於 神社本庁	7・12	中山庁長・武田録事出席	8・23~24	神青会視練成研修会 二十五名受講 於 寶登山神社 総代幹部研修会 百五十七名参加 於 寶登山神社
6・9	祭儀研究部会 情報部会 神政連指導者研究会	7・20	埼玉連主催「平和の祈り」 神道青年会奉仕 情報部会 於 熊本・キャッスルH 埼玉連主催「平和の祈り」 神道青年会奉仕 情報部会 於 熊本・キャッスルH	8・24	祭式研修会 於 熊谷・Hガールズ 祭式研修会 於 熊谷・Hガールズ 祭式研修会 於 熊谷・Hガールズ
6・9~10	神宮崇敬会参与・評議委員会 於 神宮 教化事業部会 於 神社庁	7・21	H P 専門委員会 教化事業部会 祭儀研究部会 教化委員会拡大會議 教化委員会機構再編検討委員会	8・25	初任神職研修 十六名受講 初任神職研修 十六名受講 初任神職研修 十六名受講
6・10	情報部会 於 神社庁	7・22	祭儀研究部会 於 神社庁	8・27~29	秩父神社 秩父神社 秩父神社
6・11	情報部会 於 神社庁	7・27	祭儀研究部会 於 神社庁	8・27	別表神社宮司懇話会 於 日高「あさひ」 秩父雅楽研修 十三名受講 秩父神社
6・12	埼玉連講演會 於 天理教務支庁	7・28	教化委員会拡大會議 於 神社庁	8・29	秩父神社 秩父神社 秩父神社
6・14	國學院大學院友神職會役員會 前原参事出席 於 大宮・氷川神社	7・29	靖国訴訟口頭弁論會傍聴報告集會 前原参事・武田録事出席 於 東京地裁・靖国神社	8・1	田島 和文(兼) 山神社宮司(北足立) 千家徳比古(兼) 久伊豆神社權禰宜(南埼玉) 田島 和文(兼) 鷲栖神社宮司他一社(北埼玉) 松岡 俊行(兼) 劍神社他四社(北埼玉) 茂木 治男(兼) 八幡神社宮司他一社(北埼玉) 茂木 治男(兼) 榛名神社宮司他二社(大里) 石山 信昭(兼) 氷川神社宮司代務者(北足立) 岡部 祥太(兼) 伊草神社權宜(比企) 岡部 宜章(兼) 日枝神社權宜(比企)
6・16	神青協一都七県協議會十五周年総會 中山庁長・武田録事出席 於 浅草ビューH	8・1	武蔵一宮・氷川神社例祭 中山庁長参列	8・15	宮島 昭 氷川八幡神社宮司(北足立) (八月二日 享年七十七歳)
6・16~17	神社庁事務担当者會 前原参事出席 於 神社本庁	8・3~5	初任神職研修 十五名受講 於 寶登山神社	8・17	教化事業部会(鴨下班) 於 鳩ヶ谷・氷川神社 神婦会祭祀舞研修会 十五名受講 於 寶登山神社
6・17	一都七県教化担当者會 中山庁長他出席 於 神社本庁	8・4	教化研修部会 於 神社庁	8・23~24	神青会視練成研修会 二十五名受講 於 寶登山神社 情報部会 於 神社庁
6・23	遷宮奉賛会県本部評議員會 於 神社本庁	8・10~12	神社庁雅楽指導者養成研修會 鳥崎・東角井・大澤(佳)受講 於 神社本庁	8・25	初任神職研修 十六名受講 初任神職研修 十六名受講 初任神職研修 十六名受講

# お宮と親子の集いハンドブック作成に向けて

高橋 寛 司

本年度も各支部による「お宮と親子の集い」が開催されています。この企画の主眼は、その地区住民の若い親子に対して、氏子意識の潜在的啓蒙、居住地域の神社について親しみや理解を深めてもらうことにあります。

ただし、企画内容も行政など一般で行われているレクリエーションとは一線を画し、主眼に基づいて神社ならではの、或いは神社だからできることをよく考慮に入れるべきです。

一例として、先日おこなわれた入間支部（川越永川神社）では、開会に先立っての正式参拝という形を取ってとらずに、祭式講師が親子にじっくりと三十分かけて参拝作法を教え、プログラムの最後に正式参拝に臨んだために、幼児まで上手に揃った参拝ができました。神職からきちんと教わったという経験が、普段の参拝時にも活かされそうです。

さて、今一つ忘れてはならないことは、この事業は、神職のための研修事業であるということです。参加する神職は、動員されて会場神社の応援や手伝いに出向いているという意識でな



入間支部 正式参拝



南埼玉支部 書道キッズ



北足立支部 未来に届けばくらの思い

く、是非、自身の奉務神社での開催を想像し、その参加体験の中から得た知識や情報を駆使して、その実現を目指していただくことが目的です。そのためにも支部を超えた企画・情報の共有が必要になっていきます。

そこで事務局では、この十年間に培ってきた各支部・開催神社の知恵や工夫を持ち寄っていただき、更なる発展への手引きとなるよう、神社庁ホームページを利用して『お宮と親子の集いハンドブック』を順次作成したいと考えております。関係各位には何卒御協力賜りますようお願い致します。

(神社庁学芸員)

